

重要魚種の卵稚仔及びプランクトンの研究

(我が国周辺漁業資源調査)

(予算区分 交付金 研究期間 平成8年度～)

担当：漁業開発部資源海洋研究室

【研究の背景とねらい】

国連海洋法条約批准に伴い、我が国周辺における漁業資源の漁獲可能量(TAC)を決定し、資源の保存及び管理に関する措置が義務付けられています。それを受け、重要魚種については資源評価が行われ、対象魚種の漁獲統計や生物情報等の収集が行われています。

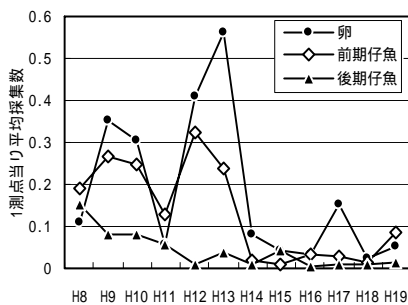
イワシ類及びサバ類など重要魚種の卵稚仔についても、資源評価の情報収集の一環として、出現状況の調査が行われています。この中で、静岡県周辺海域の卵稚仔・プランクトンの分布と出現状況を調べ、重要魚種との関連性を検討します。

【これまでに得られた成果】

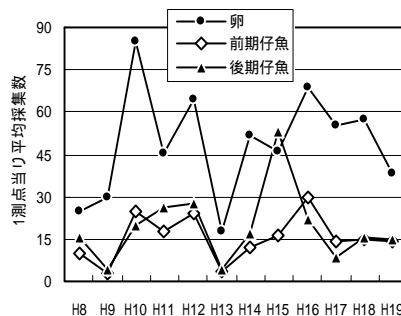
- ・マイワシの卵・前期仔魚は平成9～10、12～13年に比較的多く採集され、19年の採集量は昨年を上回りました。一方、後期仔魚は減少傾向にありました。
- ・カタクチイワシの卵稚仔は平成9、13年に採集量が落ち込み、19年も減少したものの、高水準で維持されていました。
- ・サバ類の卵は平成10、13年に多く採集されていました。10年は併せて仔魚も多く採集されていますが、13年は仔魚の採集は低水準に止まっていた。
- ・カタクチイワシ卵採集量とカタクチシラス水揚量に相関はみられないことが分かりました



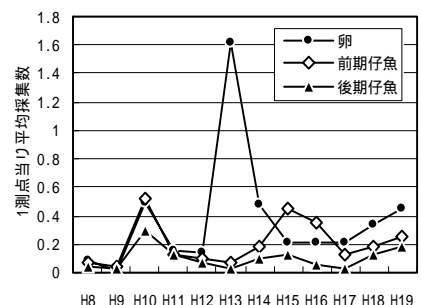
卵稚仔採集の様子



マイワシ卵稚仔の1測点当り平均採集数



カタクチイワシ卵稚仔の1測点当り平均採集数



サバ類卵稚仔の1測点当り平均採集数

【期待される成果】

- ・卵稚仔の出現状況について情報の集積を行うことで、資源評価の精度が高まり、より有効な資源管理を実施することができます。
- ・卵稚仔の出現状況から、資源加入の把握を行い、漁況予測につなげます。

【今後の計画】

- ・重要魚種の卵稚仔分布と海況変動の関連について検討します。
- ・沿岸へ加入してくる重要魚種の稚魚採集を行い、漁況との関連について検討します。

(作成 平成20年4月)